

54 過去 25 年間に於ける視覚障害者更生施設等利用者の動向について

中西 勉¹⁾ 岩波将輝²⁾ 西田朋美²⁾ 仲泊 聡²⁾

¹⁾病院リハビリテーション部ロービジョン訓練 ²⁾ 病院第 2 診療部

1. はじめに

国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション部ロービジョン訓練では、昭和 61(1986)年から 5 年ごとに視覚障害者が利用している施設等に対して視覚障害原因などについての調査を行っている。ここでは、これまでの 6 回の調査により得られた利用者の年齢や視力、重複障害の有無などについて報告する。視機能などの実態を知ることは、視覚障害をもつ利用者に対する医療やリハビリテーションに資するものとする。

2. 調査対象と調査期間

視覚障害者が訓練や生活などを行っている盲養護老人ホーム等を含む施設などを対象とした。期間は、平成 23 年 12 月から平成 24 年 2 月であった。

3. 調査内容

調査内容は、利用者の調査時の年齢、視覚障害の原因となった眼疾患、矯正視力、身体障害者手帳の等級、重複障害の有無とその内容などであった。

4. 方法

全国の視覚障害者を利用対象とする 182 施設等の施設長に調査を依頼した(当センター倫理委員会における承認取得有)。各施設長は利用者に対して調査についての説明・同意を得たうえで、上記調査内容についてのアンケート調査を各施設職員とともに施行した。これらのデータから、視力の程度、年齢、重複障害の有無などを調べた。

5. 結果

42 施設・部門(機能訓練：8、就労移行・就労継続：6、障害者支援・救護：10、訪問訓練：7、盲養護老人ホーム：9)から 1,272 人分の回答を得た。調査時年齢は、盲養護老人ホーム以外の施設(一般施設)では、50.0±15.0 歳(男性 49.0±14.5 歳、女性 51.5±15.6 歳)、盲養護老人ホーム(老人ホーム)では、79.2±7.3 歳(男性 77.2±7.1 歳、女性 80.2±7.3 歳)であった。一般施設の 60 歳以上の利用者は、昭和 61 年は 2.0%であったが、今回は 28.7%となっていた。視力は、一般施設および老人ホームとも 0 が最多で、0.01 以下が続いており、それぞれ視力 0 が 34.2%、20.2%、0.01 以下が 15.4%、18.4%であった。視覚の他に障害のある利用者(重複障害者)は、一般施設 484 人(51.8%)、老人ホーム 72 人(21.4%)であった。なお、重複障害を調査項目に入れた平成 13 年と 18 年の一般施設の重複障害者の割合は、それぞれ 25.1%、60.3%であった。

6. まとめ

一般施設、老人ホームとも視力 0 が最多で、次に 0.01 であった。一般施設における利用者の高齢化は顕著であり、今回は 60 歳以上が全体の約 3 割を占めていた。調査時の年齢は、一般施設で高齢化していた。重複障害の利用者で最多は、一般施設では知的障害、老人ホームでは聴覚障害であった。今回を含めた最近の 3 回の調査では、重複障害は知的障害が最も多かった。